



戦争と私

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まって、もう半年近くになろうとしている。しかし、いまだに戦火は収まる気配もなく、多くの命が奪われ、人々の日常や土地が破壊され続けている。

日本では、今年も8月に広島・長崎の原爆の日、敗戦の日を迎える。核兵器や戦争の恐ろしさを経験した人たちが少なくなっている中、現在も神戸 YWCA で活躍されている92歳の橋本静子さんに体験を書いていただいた。

橋本 静子 (神戸 YWCA 会員)

その日私は空襲警報と共に工場に近い山の中に避難していた。サイレンや爆音が収まると、真昼間なのに辺りは暗くなり、空はピンクに染まり、オレンジ色の太陽が浮かんでいた。そのうち焼け焦げた紙片が雨のように降って来た。異様な情景がやや収まって工場に引き返す道すがら、私はその前日友達から口伝えに教えてもらったカール・ブッセの詩、

山のあなたの空遠く ^{さいわい} 幸 住むと人の云う。
あゝ我友と尋めゆきて ^と 涙さしぐみ帰り来ぬ。
山のあなたになお遠く ^{さいわい} 幸 住むと人の云う

を忘れないように反芻していた。

当時私は前年1944年に発令された女子挺身勤労令に従いベアリング工場に動員され、工場の寮に寄宿して働いていた。45年に入ると空襲は頻度を増し日常化していたが、この日阪神間を襲った空襲は格別だった。

戦時下の記憶は数多あるが、今思うとこの日の経験は正にあの時代を象徴する特異な一シーンではなかったかと思う。小学生の頃からお国の為に命を捨てる事さえ美学のように教えられてきたから、女学生といえども国の為に学業を捨て、軍需工場で働く事は当然であった。着の身着のまま寝起きして、豆かすの繋ぎに米粒が入っているような主食と、塩水に昆布が二、三本浮いているような汁がアルミの器で配食される(工場の朝食は毎日これであった)日々は決して好ましいものではなかったが、他に何を望むべく

もなく、これでさえ食事の時間が待ち遠しかった。そんな苛酷な日々を嘆いた15才の少女がブッセの詩にひかれた訳ではない。無意識の中に心にひっかかるものがあったかもしれないが、たまたま友達が教えてくれて、私も覚えたというに過ぎない。そもそも当時幸福とは何ぞやを云々する事等はありませんし、ましてやそれを尋ね求める事等は論外であった(後に知るがこのブッセ(1872~1918)の詩は上田敏(1874~1916)の翻訳で出版されていて既にかなり知られていたのだと思う)。当時の私達は現状を只受容する以外、行動は勿論、思考する事さえ不可能であった。せめて幸を夢見る自由があったら良かったと思うが……。全体主義の何たるかも知らず、国が決めた事に従うには何の違和感も抱かなかった。私の年代は特に義務教育の始めから国策の鑄型にきっちりめられて教育を受けていたから、その傾向は知情意全てに及んでいた。

今ロシアとウクライナの戦争が始まり、改めて種々考えさせられる日々である。戦後77年を経て政治家も戦争を知らない世代になっている現在、その発言には度々危惧を覚えている。私達も今自分の立ち位置を確かめ、注意深く情勢を見守るべきではないかと思う。全体主義を体験した者として訴えたい。

「決してあの時代に戻ってはならない。民主主義も多くの問題と危険をはらんでいるが、この体制でこそ与えられている自由の恩恵は決して手離してはならない。全体主義に自由は無い!」と。

キックオフ・ミーティング



6月25日(土)、神戸YWCAにてキックオフ・ミーティングを開催しました。「つながり・交流の場」となることを目指したプログラムです。約3年ぶりに開かれ、会館16人とオンライン3人の計19人が参加しました。

第1部では、各グループやプロジェクトの紹介を行い、神戸YWCAの会員活動にはどんなものがあり、どんな人が動いているのかを知り合うことができました。第2部では、大きなカレンダーを用いて、夏の活動予定を書き込みながら、参加者同士がフラットに話ができて、最後には、今年度の運営委員会が担う「神戸YWCAのミッションの明確化と達成に向けた仕組み

づくり」に関するアンケートを実施しました。また、終了後には、午前中に開催されていたミニバザーの商品も楽しみながら、久しぶりの出合いを喜び、会話の花を咲かせました。

神戸YWCAの全活動が本館に集合した今、会員同士が出会い、新たな活動の在り方を模索する門出となりました。

神戸YWCAの2022年度活動目標は、「つながりの意味を深め、共に動こう」です。私たちが大切にしたい「つながり」はどの



ようなもので、その先に何を描くのか、みなさんと共に考えていきたいと感じました。(福田 百)



ひさびさのミニバザー

6月25日(土)11時~12時30分、神戸YWCA会館駐輪場にて「ミニミニバザー」を開催しました。出品は子ども服、大人服、分室の和食器、沖縄直送のバナナや兵庫産のジャガイモ、YWCAチャリティードリップコーヒーや

はるいさんの天然はちみつ、木曜カフェのコーヒーコーナー。開催時間は短かったですが、会員はじめ保育園の子どもや保護者、学院やまごの手関係者、地域の方々などに

ぎわいました。開催にあたり委員会を立ちあげ、バザーの趣旨を、①分室閉館によって出た和食器を整理したい②保育園に子ども服の提供がありミニバザーを実施したい③当日キックオフ・ミーティングを併催して会員

に参加してほしい④地域の方に神戸YWCAの活動を知らせたい、と設定しました。また、近隣地域にチラシをポスティングしてPRに努めました。

各事業の必要を拾いあげ、短期集中・省エネで開催したミニミニバザー。地域の方々が保育園へ関心を示してくださったり、普段なかなか出合わない人たちが、買い物を楽しみつつ笑顔で親睦を深めていたのは嬉しいことでした。当日の売り上げは52,562円。

(岩切 幸子)

まごの手ヘルパー徒然記



ある日の夕方、利用者のMさんの食事を介助しながら一緒にテレビを見てみると、「今年は暑くなるのが早くて、夏に咲くタチアオイが5月下旬から咲き始めた」というニュースが取りあげられていました。

タチアオイは下から上に花が咲いていく植物だと紹介があり、「そんな面白い咲き方の花があるのですねえ」とMさんに話しかけたら、「これ、俺の地元じゃ、ノボリフジと

言ってたなあ」と、懐かしそうな目をして、つぶやきました。そこから、自分が育った北海道の思い出話をされ、興味深く聞かせてもらいました。Mさんは79歳。いろいろご苦労があったようで、神戸に来たときは野宿状態、その後生活保護を受けて家で暮らしていたが、飲酒がすすみ転倒を繰り返し、脊椎を痛め、数年前

から24時間寝たきり状態です。自宅での生活を希望し、現在は1カ月の半分を病院で、残り半分を自宅で過ごしています。

実は、後で調べたら、タチアオイとノボリフジは別の花でした(笑)。限られた時間で介助しながらですが、ふとしたことでいろいろなお話を聞くことができます。慣れた自宅での1対1の介護だから、利用者も心を開いて話しやすいのかな…と、思ったりしています。

(まごの手職員・藤井 かえ子)

認知症サポーター養成講座



7月2日(土)、神戸聖愛教会を会場に、キャラバンメイトの沖本雅子さんを講師として「認知症サポーター養成講座」が開催されました。10代から70代までの20人余りが参加し、2時間、認知症の講義とグループでの話し合いを通して、有意義な学びと交流の時となりました。

認知症は誰もがなる可能性があり、早く気づくことと、まわりの人々の支えが大切です。サポーターになり、家族、友人、知人が安心して暮らせる社会を作るための学びは感謝でした。これからは認知症サポーターで



あることを示すオレンジリングを常に携帯し、いつでもお手伝いできる自覚を持って歩んでいこうと思えました。(草地 とし子)

文学講座

「神戸YWCA文学講座」は1999年、京都精華大学名誉教授笠原芳光さんを講師に始められた。「文学とは言語によって表現された芸術」という引用を受けて、日本にとどまらず、世界中の詩歌、小説、エッセイ、評論、宗教論について講義を受けた。

詳しく深く学んだが、2018年に先生は天に召され、その後はグループとして残って、今は清少納言『枕草子』を現代語訳を参考に読み継いでいる。自然の美しい描写、宮中の雅やかな佇まいやファッション。道端の草木、吹く風にまで心をとめる繊細さに、今の世からのしばしの逃亡である。(中尾 廣美)



ピース・ブリッジ

「ベアテ・シロタさんについて学び、平和を考える」

6月11日(土)、ピース・ブリッジの「学び、語り合い、つながる会」(第11回)を催しました。

ベアテ・シロタさんは、憲法24条の草案を書いてくださった方で、父親はウクライナのキーウ出身の高名なピアニストでした。子どもの頃、家族で日本に住んでいたベアテさんは、日本女性には十分な人権が与えられていないと痛感していたのです。

今回、私たちは、自立した「個人」として生きることの大切さを語り合いました。様々な世代の12人で、人権や平和についての熱い思いをかち合うことができました。

(寺沢 京子)



憲法カフェ

参院選前のおしゃべり会

公示間近の6月19日(日)、平和活動グループ「参院選前のおしゃべり会」に会員8人が集まりました。

憲法や平和を巡って日本社会が揺れる中での選挙でしたが、女性として、女性団体の一員としてどう向きあえばよいかの話し合い、交流しました。

会では、平和や女性の現状について資料を共有し、参加者が日々、仕



事や生活から感じている問題を出し合いました。共通するのは、今の社会は「優しくない」ということでした。誰もが大切にされ、世界の人々と共に生きる社会は、憲法を生活に活かすことから始まる、と実感する会になりました。(川辺 比呂子)

訪問介護事業所「まごの手」に入職し約10カ月。心優しい方々に囲まれ、とても心地よい環境の中、念願の訪問介護に携わることができ、充実の日々を楽しんでいる。様々な人生、それぞれの生き方の先輩方(利用者様)から学ぶことが多く、私もこれから往く道を考えさせて頂ける。先日は、YWCA職員研修を受け、感動したことがあった。それは、理念の一つの「すべての核を認めない」である。今、世の中が混乱して「核」への捉え方もそれぞれである。私も「すべての核、武力は拒否」派であり、ハッキリとYWCAの理念と知り、嬉しかった。とことん、「平和」を求めたい。また先日、ウクライナ支援活動の手づくりの可愛いタオルを手にとり、感動した。そこには、「ウクライナとロシアの平和のために」と書かれてあった。心がホッと柔らいだ。そうだ、ロシアもウクライナもどちらも平和であって欲しい。同じ地球に住む人間同士。そんな精神のYWCAの中で働けることに喜びを感じ、ご縁があったことに感謝している。(山田 司)



訪問介護事業所「まごの手」に入職し約10カ月。心優しい方々に囲まれ、とても心地よい環境の中、念願の訪問介護に携わることができ、充実の日々を楽しんでいる。様々な人生、それぞれの生き方の先輩方(利用者様)から学ぶことが多く、私もこれから往く道を考えさせて頂ける。先日は、YWCA職員研修を受け、感動したことがあった。それは、理念の一つの「すべての核を認めない」である。今、世の中が混乱して「核」への捉え方もそれぞれである。私も「すべての核、武力は拒否」派であり、ハッキリとYWCAの理念と知り、嬉しかった。とことん、「平和」を求めたい。また先日、ウクライナ支援活動の手づくりの可愛いタオルを手にとり、感動した。そこには、「ウクライナとロシアの平和のために」と書かれてあった。心がホッと柔らいだ。そうだ、ロシアもウクライナもどちらも平和であって欲しい。同じ地球に住む人間同士。そんな精神のYWCAの中で働けることに喜びを感じ、ご縁があったことに感謝している。(山田 司)

神戸YWCAへの おさそい

●わいわいデイルーム 会館

(神戸市地域拠点型一般介護予防事業)
毎週火曜日、10時～15時
利用についてはお近くのあんしんすこやかセンターにご相談ください。

●カフェもぐもぐ その他

若年性認知症の人と仲間たちのつどい
8月6日(土)、9月3日(土) 10時30分～15時
場所 日本基督教団神戸聖愛教会
参加費 800円(食事付)
要予約、詳細はお問い合わせください。

●木曜カフェ 会館

8月25日、9月8日、22日
(第2・4木曜日)、13時30分～15時30分
レコードで懐かしい音楽を聴きながらほっこり
しませんか？(1ドリンク100円～)
*食料品の販売はありません。

夏季休館日 8月10日(水)～16日(火)

*まごの手・保育園を除く

●声の奉仕 会館

視覚障がい者のためのデジタル図書づくり
8月23日、9月27日(火) 13～16時
(第4火曜日)
参加費 600円/月(YWCAの会員になることが必
要。年会費12,000円)他に日赤団費1,000円/年
講師 酒井茂樹さん(元NHKアナウンサー)

神戸YWCAジェンダーグループ
オンラインイベント
生き方は自分で選ぶ
～男の子・女の子の
ジェンダー意識の作られかた～
8月27日(土)
19:00～
開催方法:
オンライン(ZOOM)
参加費:
1,000円



片田 孫 朝日さん

申込方法
以下のリンクまたはQRコードより、Peatixでお申し込みください。
<https://gender-kobeywca-workshop0827.peatix.com>

会費納入のお願い

2022年度(2022年4月～
2023年3月)の会費・会友
費のお支払いをお願いいたし
ます。
2021年度の会費が未納の方
は、併せてお納めください。

*特別な事情により会費の支
払いが困難な場合は、「会費
減額制度」がありますので、
事務局にご相談ください。

神戸YWCAから日本YWCAへ
の資金借入要請に関する報告、
2022年度以降の財政構造立
て直しについて協議した。

7月9日(土)第2回理事会。
出席理事8人、監事2人、
陪席:日本YWCA理事4人。
神戸YWCAからの資金借入要
請について協議した。

7月23日(土)第3回理事会。
出席理事7人、監事2人。
2023年度以降の財政構造立
て直しに向けて具体的方針策
定のため協議した。

(総幹事・西本玲子)

評議員会報告

6月18日(土)第12回定
時評議員会開催。出席評議員
8人、出席役員3人。2021
年度事業報告および決算報告
が承認された。2022年度事
業計画と予算が報告され、質
疑がなされた。

(総幹事・西本玲子)

新会員・会友

青木直子 山田司
中村祥規 (敬称略)

賛助員

岩村義雄 小室こゆみ
馬場一郎 (敬称略)

編集後記

聖書より「いつも喜んでいな
さい。絶えず祈りなさい。どん
なことにも感謝しなさい」

(H・N)

学院だより

8月1日～12日、「勉強に
役立つ日本語」クラスを開催
している(子ども日本語トー
タルサポート募金プログラ
ム)。地域の学校に通う、外国
にルーツを持つ児童・生徒を
対象に、教科学習のための日
本語指導を毎日4クラス行う。
2カ国6人が最後まで無事に
通えるよう、応援したい。

(学院長・西本玲子)

まごの手だより

訪問介護事業所は7月1日、
正職員に松尾玲子を迎えた。
活躍を期待している。7月末
日で吉田里子がサービス提供
責任者を退任。8月からは登
録ヘルパーとして勤務。これ
までの働きに感謝。

これまで元気であった利用
者が何かのきっかけで重度化
し、訪問介護と居宅介護支援
の連携で対応するケースが増
えている。引き続きヘルパー
を募集している。

「居住支援」は、5～6月

に8人から相談を受け、うち
1人が住宅確保、3人は支援
継続、4人は終了した。6月
13日には中央区社協の地域
福祉ネットワーク・島本美
左子さんを迎え、連携強化の
ため研修会を実施した(参加
者7人)。

「生活支援わいわい」は、居
住支援からつながった一人暮
らし高齢者の支援を開始。引
越し前の片付けを手伝う。

(所長・寺内真子)

保育園だより

2歳児の子どもたちはお互
いのことがよくわかるよう
になってきました。困った対応
をされても、「〇〇ちゃんはや
さしいもね。なげないでいっ
しょにやろう」と、相手の気
持ちを上手に変えることがで
きます。

子ども同士のやり取りの中
で「きづく」「かんじる」「あ
らわす」…いろんな力が育っ
ています。(園長・梅川玲子)

運営委員会報告

6月11日、第4回運営委員
会開催(ハイブリッド)、出席
6人。【報告】●日本YWCA
●会員活動【議事】●キック
オフ・ミーティング内容

7月9日、第5回運営委員
会開催(ハイブリッド)、出席
6人。【報告】●日本YWCA
●会員活動【議事】●パーチャ
ルde地域YWCA訪問内容●
キックオフ・ミーティング、
ミニバザー、会員アンケート
の振り返りと今後の取り組み
(書記・福田百)

理事会報告

6月13日(月)職員と理
事の合同会議開催。出席理事
8人、監事2人、職員6人。
2021年度事業評価と2022
年度以降の事業予想を共有、
協議した。

6月18日(土)2022年度
第1回理事会。出席理事7人、
監事2人。評議員会報告。神

ホームヘルパー募集

誰もが地域の中で自分らしい暮らしをおくるために、
担い手となって働きませんか。

◆ホームヘルパー

常勤 月給198,100円～
パート 時給1,100～1,200円
登録型 時給1,000～1,400円

*担当・寺内までお問い合わせください。

◆生活支援訪問
サービス従業者 900円/回

神戸YWCA
まごの手

☎078-231-3156



シャマイム

担当者 佐野 睦 (日本基督教団 甲東教会会員)



よい てん ご く
0120-41-1059 (24時間受付)

宗教を問わずあらゆるお葬儀をプロデュースさせていただきます

西宮市段上町2丁目13-2

URL: <http://sanosousai.com>